

平成 27 年 2 月 11 日

軽井沢町議会

議長 篠原 公子様

議会広報広聴常任委員会

委員長 荻原 宗夫

(報告書作成者川島さゆり)

軽井沢町議会広報広聴常任委員会研修報告

1, 研修日程

平成 27 年 1 月 30 日 (金)

2, 研修先及び目的

(1) 長野市 長野自治会館 大会議室にて

(2) 住民とつながりを実感できる議会広報誌をめざして

3, 研修参加者

委員長 荻原 宗夫

委員 横須賀 桃子

委員 川島 さゆり

委員 佐藤 敏明

委員 大林 義博

随行 児玉 香 (議会事務局主任)

4, 研修内容

講師 広報・編集コンサルタント 芳野 政明氏

(社団法人 埼玉県コミュニケーションセンター理事長)

◎議会広報誌の役割とあり方

住民がつながりを実感するツールに

- ・広報を活用して議会への関心と住民参加をはかる。
- ・議会改革は広報改革であり広報の充実が議会改革を促す。
- ・議会広報が自治体情報の主役になる分権時代。
- ・議会の議事・活動内容が、住民に伝わるまでが議会活動。
- ・議会報とは、①審議内容と議会活動を公開し広報する。
- ②執行機関への監視、チェック事項を広報。③政策や条例の提案、調査研究内容を広報。④地域の多様な意見、論点を整理・公開。⑤議員の賛否態度の公表。
- ⑥様々な住民の声・意見を反映。
- ・独自の編集方針を持ち、常に住民目線、住民参加で

- ・今なにを審議しているか
- ・ページネーション、フォーマット、ラフレイアウトが大事。
- ・広報誌は読者の飛ばし読みを前提に作成。(一目で何が書いてあるか分かるような作り方が大事であり、見出しやキャッチコピー写真やレイアウトがきわめて大事。)
- ・伝わる誌面構成①見出し(タイトル)②リード③写真及び図表④記事、本文⑤ホワイトスペースを作る事が大事。
- ・行政の広報とは違う議会広報らしさを出し、住民の意見、要望、批判もあえて載せるようにすること。

5, 議会報クリニックを受けて

(今回はNo.103をクリニックして頂きました)

- ・表紙は表情が良く出ているキャプションも良いが、そのニュースの概要説明をもう少し詳しく入れる事。
- ・まちづくりを語る会の「多くの意見をいただきました」は住民の期待度が分かり良い。
- ・予算常任委員会のページは常任委員会の役割と審査の意義を示す事。
- ・一般質問はコーナータイトルとリード文が欲しい。
- ・行政視察は1ページを取っても良い内容。
- ・洋数字の指摘を受けた。(万、千のルール)

◎考察

実際にクリニックを受けて感じたことは、町民の皆さまに手に取って見て頂く工夫である。講師の先生からは、タイトル(テーマ、表題)とリード(概要説明、結論、重要点)の使い分けをしっかりとすることで読み手に伝わること、又ホワイトスペースの取り方では窮屈さを感じさせないこと、読みやすさの追求を学ばせて頂いた。一目で何が書いてあるか分かる作り方をしていかなければ町民の皆さまは読んで下さらない。行政と同じものを作ってはならないとの厳しい言葉は肝に命じていかなければならない。議会改革の一端を担う議会広報誌である事を深く自覚して今後編集に携わって参りたい。